

夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史

—北海道・東北編—

前期 ●平成25年11月2日(土)～24日(日)

後期 ●平成25年11月27日(水)～12月15日(日)

※11月26日(火)は展示替えのためご覧いただけません。



鈴木真一カ(横山松三郎)明治中期 鶏卵紙
新潟県立近代美術館・万代島美術館蔵(後期展示)



ヨーゼフ・イスラエルス(日曜の朝)1880年 油彩・板
40.5×28.3cm ハーグ市立美術館蔵
Collection Gemeentemuseum Den Haag,
The Hague, The Netherlands

近代自然主義絵画の成立 オランダ・ハーグ派展

●平成26年2月22日(土)～3月29日(土)

岩田とバルトン 記録された磐梯山噴火

佐藤 公（磐梯山噴火記念館副館長）

一八八八年明治21年の磐梯山の噴火後の写真を撮影したことが二人の共通点だが、それ以外に彼ら結びつけるものはない。しいていえば、今回の企画展「夜明け前」に二人の写真が並んでいることであろうか（写真1、2）。磐梯山の噴火では多くのカメラマンが駆けつけて、何百枚という写真を撮影したが、現存しているものは、その中の一六〇点ほどにすぎない。明治前半までカメラは高度な技術がなければ撮影できないもので、当時は撮影者を写真師などと呼



（写真1）ウィリアム・キンムンド・バルトン《磐梯山・噴口遠望》
明治21年 鶏卵紙 東京都写真美術館蔵（前期展示）



（写真2）岩田善平《見弥村ノ大石》明治21年 コロディオン湿版ネガ
福島県立博物館寄託（後期展示）

んだ。また、多くのカメラマンが来た理由の一つとして、報道の変化があげられる。それまで政党新聞が中心であったが、その時々々の出来事を伝える大衆新聞に変わろうとしていた時期に磐梯山が噴火をしたのである。

一八八八年以前の明治前半はあまり大きな自然災害は発生していないため、磐梯山が注目を集めることになった。磐梯山の噴火は、北側にあった小磐梯という火山が水蒸気爆発で山体崩壊をし、岩なだれとなっ



（図1）北東6kmの秋元から見た磐梯山（Sekiya&Kikuchi 1889）
（この作品は展示されません）

て北側に流れ下り、四七七人が犠牲となった自然災害であった。

岩田善平は横浜で下岡運杖に写真を学び、喜多方に戻って写真館を開いた。彼が学んだ写真技術は湿板法という手法で、現場で溶液を調整してガラス原板に塗って撮影するもので、多くの機材を現場に持参しなければならず困難な作業であった。

一方、W・K・バルトンは新しい技法の乾板法（註）で、どこでもすぐに撮影できるカメラを用いた。彼は東京帝国大学のお抱え教師で、専門は衛生工学だが写真撮影技術がすぐれていたため、地震学者の関谷清景から依頼を受けて、磐梯山に同行した。関谷は彼の撮影した写真をもとにスケッチ（図1）を起こし、磐梯山の英語論文に掲載した。バルトンは英国出身で、日本で撮影した写真を母国に送ったため、様々な雑誌などに掲載された。その母国での受取人が有名な作家のコンナン・ドイルであった。彼

とドイルは幼馴染で、その関係でドイルが受取人となったのである。

磐梯山の噴火では錦絵（図2）も活用されたが、それらの絵は、多くの部分が想像で描かれ、実態とはかけはなれていた。そのため、印刷物に写真が刷り込めるようになると、錦絵は急速に廃れていった。

災害写真は、その状況を正確に伝える手法として、画期的で役立つものだったのである。

註 乾板法は溶液をガラス原板に先に塗布した状態で持ち運べ、現像も持ち帰ることができることから、屋外での撮影が簡単になった。



（図2）小林幾英《岩代国磐梯山噴火之図》明治21年 多色刷木版画 磐梯山噴火記念館蔵（前期展示）



田本研造カ（総裁 榎本釜次郎[武揚]
海軍副総裁）明治2年頃
函館市中央図書館蔵（後期展示）

夜明けまで 知られざる日本写真開拓史

——北海道・東北編——

前 期 ●平成25年11月2日(土)～24日(日)
後 期 ●平成25年11月27日(水)～12月15日(日)

※11月26日(火)は展示替えのためご覧いただけません。

会 場：郡山市立美術館

時 間：午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休 館 日：毎週月曜日休館(11月4日は開館、翌日休館)

観 覧 料：一般 500(400)円 高・大生300(240)円

※中学生以下・65歳以上の方、障がい者手帳をお持ちの方は無料

主 催：郡山市立美術館 読売新聞社 美術館連絡協議会 福島民友新聞社、福島中央テレビ

協 賛：ライオン 清水建設 大日本印刷 損保ジャパン

協 力：東京都写真美術館 日本大学芸術学部

関 連 行 事

○講演会「幕末・明治のおもしろ写真」

講 師 石黒敬章さん(ゆうもあくらぶ事務局長、
日本写真芸術学会評議員)

日 時 11月2日(土)午後2時～

場 所 多目的スタジオ(入場無料)

○ワークショップ

・古典写真講座

講 師 三井圭司さん(東京都写真美術館学芸員)
高島圭史さん(写真家)

日 時 11月24日(日)午前10時～

会 場 創作スタジオ 材料費1000円 定員15名

申込方法 11月6日(水)から電話受付・先着順
(受付時間：午前9時30分～午後5時)

・公開ワークショップ「磐梯山噴火と写真」

講 師 佐藤公さん(磐梯山噴火記念館副館長)

日 時 12月1日(日)午後2時～

会 場 多目的スタジオ(入場無料)

・一眼レフカメラ分解講座

講 師 井口芳夫さん(日本カメラ博物館学芸員)

日 時 12月15日(日)午後2時～

会 場 創作スタジオ 定員12名

申込方法 11月27日(水)から電話受付・先着順
(受付時間：午前9時30分～午後5時)

○映画会

・^{とっかん}呐喊(1975年 監督：岡本喜八)

日 時 11月17日(日)午後2時～

会 場 多目的スタジオ(入場無料)

・ラスト・サムライ

(2003年 監督：エドワード・ズウィック)

日 時 12月8日(日)午後2時～

会 場 多目的スタジオ(入場無料)

○美術講座

・「幕末明治の写真と絵画」

日 時 11月23日(祝・土)午後2時～

講 師 当館学芸員

会 場 講義室(入場無料)

・「実在したラスト・サムライ」

日 時 12月14日(土)午後2時～

講 師 当館学芸員

会 場 講義室(入場無料)

○ギャラリートーク

日 時 11月10日(日) 午後2時～、

12月7日(土) 午後2時～

講 師 当館学芸員

会 場 企画展示室(要観覧券)

近代自然主義絵画の成立

オランダ・ハーグ派展

平成26年2月22日(土)～3月29日(土)

休館日：毎週月曜日

開館時間：午前9時30分～午後5時
(最終入館は午後4時30分)

観覧料：一般1000(800)円、
高校・大学生500(400)円

※()内は20名以上の団体料金。中学生以下、
65歳以上、障がい者手帳をお持ちの方は無料。

主催：郡山市立美術館

後援：オランダ王国大使館、オランダ政府観光局

協力：KLMオランダ航空、

ヤマトロジスティクス株式会社

企画協力：株式会社ブレントラスト



図1 フィンセント・ファン・ゴッホ《白い帽子をかぶった農婦の顔》
1884-85年 油彩・カンヴァス 44.0×35.9cm
クレラー=ミュラー美術館蔵
Kröller-Müller Museum, Otterlo, The Netherlands

運河と干拓地、高い空とどこまでも広がる大地と海、そして風車。このキーワードからこの国を連想しますか？多くの方はオランダをイメージされるのではないのでしょうか。

今回、そんなオランダの魅力が満載の展覧会「オランダ・ハーグ派展」を開催します。19世紀に活躍したオランダのハーグ派に焦点を当てて紹介するのは、日本初となる貴重な展覧会です。

北海沿岸に位置するハーグは、現在、アムステルダム、ロッテルダムに次ぐ大都市です。ハーグは今でこそ有名なリゾート地で、また国際都市としても知られています。19世紀末までは、豊かな自然と慎ましい生活が残っていました。ハーグ派の画家



図2 フィンセント・ファン・ゴッホ《じゃがいもを掘る2人の農婦》
1885年 油彩・カンヴァス
31.5×42.5cm クレラー=ミュラー美術館蔵
Kröller-Müller Museum, Otterlo, The Netherlands

たちは、そうした、出生地のオランダの美しい自然と生活に愛着を抱き、温かいまなざしを持って描いたのです。

ハーグ派の画家たちがお手本にしたのが、フランスのバルビゾン派の絵画です。バルビゾン派の画家たちは野外での自然観察を重視し、穏やかな風景を愛していました。「オランダのバルビゾン」とも呼ばれた彼らですが、20世紀美術を代表するゴッホとモンドリアンは、このハーグ派にルーツを持っています。

一時期、ハーグに居住したことのあるゴッホは、ハーグ派の画家たちが好んだ「貧しい農民」という主題に惹きつけられました(図1、図2)。影響関係を簡略して矢印で示すと、「バルビゾン派→ハーグ派→ゴッホ、モンドリアン」という図式が成立しますが、さらに興味深いのは、バルビゾン派とハーグ派がともに17世紀オランダ黄金時代の画家に影響を受けていることです。

たとえば、ヴァイセンブルフの《ハールレムの風景》(図3)は、17世紀オランダの巨匠ライスタールを称賛するような作品です。ライスタールという画家は、実は、イギリスの画家ターナーも敬愛してやまなかった画家なのです。すると、ハーグ派の画家たちとターナーもライスタールという同じルーツを持っていることになりました。

ハーグ派とターナーという、美術史上では現在のところ互いに点にすぎない両者が

線となつてつながる可能性もあるのです。
この謎を解明すべく、「オランダ・ハーグ
派展」をお楽しみいただきながら「ターナー
が展示されている当館の常設展にもぜひお
立ち寄りください。」

(富岡進一)



図3 ヤン・ヘンドリック・ヴァイセンブルフ
《ハーレルムの風景》
1845-48年 油彩・板 23.2×34.1cm
ハーグ市立美術館蔵
Collection Gemeentemuseum
Den Haag, The Hague,
The Netherlands

関連事業

○講演会

「オランダ風景画の魅力」(仮題)
講師／古谷可由さん

(公益財団法人ひろしま美術館
学芸部長 本展監修者)

日時／平成26年2月23日(日)

午後2時～

会場／多目的スタジオ

(入場無料)

○美術講座

講師／当館学芸員

日時／平成26年3月9日(日)

午後2時～

会場／講義室(入場無料)

○ギャラリートーク

講師／当館学芸員

日時／平成26年3月1日(土)、

3月8日(土) 午後2時～

会場／企画展示室(要観覧券)

○ミュージアム・シアター

「炎の人」ゴッホ

(1955年、ヴァンセント・ミネリ監督)

日時／平成26年3月16日(日)

午後2時～

会場／多目的スタジオ(入場無料)

雪村周継 《四季山水図屏風》 特別展示

現在の茨城県常陸大宮市で生まれたとされる雪村周継(1500年頃—1580年代前半)は室町時代後期を代表する画家のひとりです。雪村がその晩年を過ごしたとされる庵のあった場所は当時三春、現在の郡山市西田町であり、そこには雪村庵が残っています。

当館では、2005(平成17)年からほぼ毎年正月に、彼の屏風を企画展示室で特別展示しています。右から順に四季の風景が描かれている本作では、墨の濃淡だけによる雄大な自然を満喫できるだけでなく、ところどころに描かれた寺、舟、滝、それに人を探すだけでも楽しめます。

今年もどうぞお楽しみください。常設展のチケットでご覧いただけます。

平成26年1月5日(日)～1月19日(日)

休館日：毎週月曜日(1月13日は開館、翌日休館)

開館時間：午前9時30分～午後5時

(最終入館は午後4時30分)

料 金：一般200(150)円 高・大生100(70)円

()内は20名以上の団体料金。中学生以下、
65歳以上、障がい者手帳をお持ちの方は無料。



雪村周継《四季山水図屏風》
16世紀後半(室町時代末～桃山時代)作
紙本墨画 各150.2×341.8cm 六曲一双

「江戸」からの贈りもの

もんきりあそび

下 申 菜 穂 (造形作家)

紙を折り畳んで型紙の通りに切り、そつと開く。すると手の中にふわりと、美しい日本の形が舞いおりる。その瞬間のときめきは、何度やっても色褪せることがない。

明治時代の遊びの本で「紋切り型」を見つけた。それまでこの言葉の意味を深く考えずに使ってきた。そう「型通りでつまらない」という意味だ。その語源が家紋を切り抜くための「型紙」だったこと、そして家紋をこのように遊ぶということ自体に驚いた。そこから、私達の祖先が暮らしの中で育んできた文様の文化を探求するようになった。

「紋切りあそび」は江戸時代の職人が紋を美しく簡単に描くための技術として始まり、意外な形が生まれる面白さから寺子屋などでも遊ばれたようだ。昭和の初めの頃までは図工の教科書にも載っていた。



ワークショップ風景

た。ところがいつの間にかふつとりと姿を消していたのだ。私達の暮らしから和服が消え、そこで生きてきた文様とも縁遠くなってしまう。

今でも家紋を描く職人さんのための「紋帖」がある。そこに植物や動物だけでなく暮らしの道具、月や星、雷や霞など森羅万象がぎっしりと並び、まるで博物図鑑をみるようだ。そこからは祖先達の暮らしぶりや身近な自然に注ぐ細やかな観察眼が見てとれる。ひとつひとつに意味や物語がこぼれ出ている。

「紋切りあそび」を通してこれらの「かたち」ともつと親しくつきあひ、私達の今の暮らしのなかで、遊んで使った次の世代に手渡していければいいな。そう思っ、型紙を工夫し、本を出版、ワークショップを続けている。郡山市立美術館にもそんなご縁で訪れ、みなさんと団扇をつくった。ワークショップをするたび驚くのは、同じ型から始まって美に個性豊かな作品が出来るということ。そう、型があるからこそ「型破り」ができる！個性や創造は白い紙の上にひよいと生まれるものではなく、多くの祖先達の残した「型」の上に咲く花なのだ。ぜひ、あなたも誰かに手渡して欲しい。

ワークショップ
ワークショップ 江戸の切り紙
「紋切りあそび」で団扇をつくる
平成25年7月14日(日)
会場 多目的スタジオ
講師 下中菜穂さん 松田牧恵さん

講師 下中菜穂さん 松田牧恵さん

福島の皆様に当館のコレクションをご覧いただくことができ、心から嬉しく思っています。東日本大震災の発生から既に2年半を超え時間が流れました。しかし、福島第一原発事故の影響もあり、いまだ将来への確かな希望をもてない状況が続いています。そのなかで郡山市立美術館からのご要請にお応えして、震災復興支援として当館のコレクションを郡山市、そして福島県の皆様にご覧いただく機会をもてたことには特別な意味がありました。なぜなら当館の歴史は、サンフランシスコ講話条約締結を記念して、第二次大戦後の復興と人々の心の拠り所となることを願って計画され、昭和30年に開館した愛知県文化会館美術館に始まっているからです。さらにその数年後、私たちは伊勢湾台風という、愛知県だけでなく三千人を超える犠牲をともなった記録的な災害にも見舞



展示会テープカット(平成25年8月30日)

左から 佐治ゆかり(当館館長)、杉山みなみ氏(公募参加者代表)、村田氏、木村孝雄(郡山市教育委員会教育長)、大内嘉明氏(郡山市議会議員)、太田忠良氏(同副議長)、阿部晃造氏(郡山市教育委員会教育委員長)

「震災復興支援 愛知県美術館所蔵品展 黄金の騎士、北へ」を終えて

村田 眞 宏 (愛知県美術館長)

われました。敗戦や災害といった苦難のなかでも、美術に触れ、それを糧として未来を信じて歩みを重ねていくことの大切さを、当館の歴史とコレクションが教えてくれているように思います。

この展示会では、クリムトの代表作《人生は戦いなり》(黄金の騎士)を皆様にご覧いただきました。この作品は、彼が芸術の理想を求めながらも周囲の理解を得ることができず、人生の窮地に陥っていた時に、自らを奮い立たせるために描いたと言われるものです。クリムトが困難に立ち向かうためこの絵に込めた思いが、芸術による力強いエールとして皆様へ受け止めていただけたものと確信しています。

皆様にとって今回の展示会が芸術に触れる一時の安らぎの場となり、そして明日への糧を得ていただく機会としていただけたことができたのであれば、これに勝る喜びはありません。

講演会

「美術の持つ力」愛知県美術館のコレクションを中心に
平成25年8月31日(土)
会場 多目的スタジオ
講師 村田眞宏さん



講演会

「日本洋画史の中の小磯良平」

平成25年6月2日(日)
会場：多目的スタジオ
講師：島田康寛さん(神戸市立小磯記念館長)



「生誕110年 小磯良平の世界」にあわせて、大正末期からの日本洋画の歴史とその中における小磯良平の位置を考える講演会。戦前の滞欧期、エコール・ド・パリの時代において、彼が得たものと、その後の作風の変遷を深くご紹介いただきました。

ミュージアム・コンサート

絵画から聴こえてくる響き

平成25年6月8日(土)
会場：階段ホール
演奏：永田平八さん(リュート)
松村萌子さん(ソプラノ)
佐藤恵梨奈さん(ヴァイオリン)
能登伊津子さん(チェンバロ)



「生誕110年 小磯良平の世界」にあわせて、小磯作品にたびたび描かれた古楽器によるコンサートを開催しました。様々な楽器の演奏に、古楽器についてのレクチャーなどが加わって、充実した内容になりました。

第12回風土記の丘の美術展

郡山市内の小学生による作品展

平成25年7月23日(火)～
8月25日(日)
会場：展示ロビー
講師：郡山市立美術館
郡山市小学校造形教育研究会



郡山市内の小学生が授業で制作した作品を、地域ごとに週替わりで展示しました。子どもたちの素直な気持ちが表現された印象深い作品が数多く出品されました。

朗読会

平成25年7月13日(土)、8月17日(土)
会場：多目的スタジオ
講師：児玉理恵さん(テレビユー福島アナウンサー)



「滝平二郎展」出品作『花さき山』、『モチモチの木』、『八郎』の絵本を朗読していただきました。秋田弁で書かれた絵本を秋田県出身の児玉さんが朗読するという、とても贅沢な朗読会になり、会場は温かな雰囲気になりました。

対談「滝平二郎の原風景」

平成25年7月15日(祝・月)
会場：多目的スタジオ
講師：滝平加根さん(滝平二郎長男)
村田哲朗さん(町田市立国際版画美術館長)



「滝平二郎展」にちなみ、長男である加根さん、作家に親しく接してきた村田さんに、それぞれの立場から思い出のエピソード等を紹介していただきました。滝平が絵本の挿絵を描く前の、木版画の魅力についても深く入り込んだ貴重な対談でした。

夏休み公開ワークショップ

風土記の丘発 図工&美術の時間へようこそ！ パートⅧ

平成25年8月3日(土)
会場：多目的スタジオ
講師：郡山造形サークル会員教諭8名



現行の図工と美術の授業内容を体験するワークショップ。会場内に設けた様々な屋台と遊びのコーナーは、終日大勢の人でにぎわいました。

正楽紙切りの世界

会場：多目的スタジオ
講師：林家正楽師匠(紙切り)、林家正雀師匠(落語、太鼓)、長澤あや師匠(お囃子)



音曲にあわせて、即興で紙を切っていく紙切り芸。郡山市にゆかりのある三代目正楽師匠が、江戸時代から伝わるその名人芸を披露してくださいました。寄席以外ではなかなか聴くことのできない生のお囃子に加え、紙切りに関する対談や正雀師匠の落語と日本舞踊、そして正楽師匠の紙切りとワークショップなど、たっぷりの

内容で満員御礼の会場内には笑いが絶えませんでした。

左：あや師匠と正雀師匠
中：正楽師匠
右：正雀師匠

みんなで楽しむワークショップ

ふくらませよう！「ドリーム ばるーん」

平成25年8月14日(水)
会場：多目的スタジオ
講師：安田悟さん(共立女子大学教授)



参加者全員でカラフルなビニールシートをつなぎ合わせ、大きなバルーンを制作しました。完成後は、バルーンの中に入り、自由に絵を描くなどして楽しみました。

常設展示

■ 12月1日(日)

展示室1 イギリス美術名作選

展示室2 洋画事始め

展示室3 美術と社会

展示室4 イギリスの版画／クリストファー・ドレッサーと日本

■ 12月4日(水) ～平成26年3月2日(日)

展示室1 小特集 風景を愛したノリツジ派の画家たち

展示室2 美しい日本風景

展示室3 イギリスの現代美術

展示室4 日本銅版画の歴史／うつわと色

■ 平成26年3月5日(水) ～

展示室1 イギリス近代美術

展示室2 小特集 西洋に学んだ日本の画家たち

展示室3 郡山の彫刻

展示室4 版の魅力／ガラスの神様たち

※12月4日(火)及び平成26年3月4日(火)は、展示替えのため常設展示室はご覧になれません。

第9回風土記の夜

郡山市内の中学校美術部・選択美術による作品展

会場 110ピエ(無料)

会期 11月12日(火)～12月15日(日)

美術部や選択美術で制作した郡山市内の中学生による作品展です。

みずみずしく、若さにあふれた作品を、中学生自身が額装し、美術館ロビーに展示します。

ぜひ、ご覧ください。

平成25年度 <アート・テーク>

ご好評をいただいております<アート・テーク>。アートを通して日常をより豊かにすることを目的として開催しています。

報告

第1回「型—狂言の身体・演出」

特別講師：野村萬斎さん(狂言師)
日時：5月29日(水)午後2時30分から
会場：多目的スタジオ
知られざる身体をの神秘を、動きと言葉で気づかせてくれる講座でした。



第2回「モノをみる力—若冲登場」

特別講師：ジョー・プライスさん(絵画コレクター)
エツコ・プライスさん
内山淳一さん(仙台市博物館副館長)
日時：7月25日(木)午後2時から
会場：多目的スタジオ
今年の夏、福島県立美術館で開催された「若冲がきてくれました」展出品作の所蔵者であるプライス氏の、氏ならではの作品解釈とものの見方を自ら語っていただきました。



第3回「日本人の<もの>観」

講師：佐治ゆかり(当館館長)
日時：9月21日(土)午後2時から
会場：講義室

<アート・テーク>今後の予定

第4回「知のかたち—大学博物館編①」

講師：佐治ゆかり(当館館長)
日時：11月16日(土)午後2時から
会場：講義室

第5回「知のかたち—大学博物館編②」

講師：佐治ゆかり(当館館長)
日時：平成26年1月18日(土)午後2時から
会場：講義室

第6回「ものが語る、ものを語る—小泉八雲の怪談(朗読)」

講師：佐野史郎さん(俳優)
日時：平成26年3月15日(土)(予定)
午後2時から
会場：多目的スタジオ



※各回とも参加は無料ですが、第6回は事前の参加申込が必要です。詳細は美術館までお問い合わせください。

T O P I C S

美術館のカフェ juju 130 cafe

(ジュジュ イチサンマル カフェ)

旬のフルーツを使ったパンケーキ 690円

バニラアイスのをせたパンケーキの上に、砂糖と白ワインでじっくり煮詰めた旬の果物のコンフィチュールと生クリームをたっぷりかけたボリュームのあるデザートです。果物は時期によって変わるので、毎回違った味が楽しめます。デザートの他、期間限定のお飲み物も。旬のデザートとお好みのお飲み物を合わせて、あなただけのカフェタイムをお楽しみください。

営業時間 11:00-17:00 電話 024-942-2250



年末年始と臨時休館のお知らせ
12月20日(金)から平成26年1月4日(土)まで、館内消毒及び年末年始のため、全館休館となります。